平成 25 年 3 月 8 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター　*Nara IDSC*
（奈良県保健環境研究センター内）

今週の概要

- 今週の感染症情報
- 病原体（ウイルス）検出情報（平成 25 年 2 月）New
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（2 月月報）New
- 流行感染症情報：インフルエンザ
- 保健環境研究センターだより：昨年に引き続き風しんが流行しています
  ～風しんから、おなかの赤ちゃんを守るために！～New

（調査週）平成 25 年　第 9 週　2 月 25 日（月）～3 月 3 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況　（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾　患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	インフルエンザ	11.58	→～↓	→～↓	→～↓	→～↓
2	感染性胃腸炎	5.91	→	→～↑	→	→
3	RS ウイルス感染症	0.89	↑	→～↑	↑↑	→
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.60	→～↓	→～↓	→～↓	↓
5	水痘	0.46	→～↓	→～↓	→～↓	→～↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況　報告数は471例で、前週報告の497例から若干の減少。上位５疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④RSウイルス感染症＝咽頭結膜熱＝水痘の順。RSウイルス感染症の報告数（7例）は、やや増加。咽頭結膜熱の報告数（7例）も、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（118例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（7例）も、ほぼ横ばい。A群溶連菌咽頭炎の報告数（13例）は、減少。インフルエンザの報告数（328→315例）は、やや減少。また、インフルエンザ定点か

らの報告は、奈良市HC管内；100例、郡山HC管内；215例の計315例、定点当たりの報告数は、前週の12.15から11.67と若干の減少。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点と基幹定点からの報告は、すべてなかった。

（村井　記）

県中部地区概況　報告数は、443 例から 391 例と減少した。上位 5 疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、A 群溶連菌咽頭炎・水痘の順であった。インフルエンザは、326 例から 273 例と減少傾向であるが、定点当たりのインフルエンザ患者の報告数は、12.41 と依然、注意報の域である。感染性胃腸炎は、81 例から 77 例と横ばいである。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎 1 例（5～9 歳）の報告が、菊城保健所よりあった。眼科定点からの報告はなかった。

（高木　記）

県南部地区概況　報告数（第 8 週→第 9 週）は 73 例→72 例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ(46 例→49 例）、②感染性胃腸炎(10 例→12 例)、③RS ウイルス感染症（6 例→5 例）、④咽頭結膜熱（0 例→2 例）、④水痘(4 例→2 例)、⑥A 群溶連菌咽頭炎（4 例→1 例）、⑥手足口病（0 例→1 例）であった。

（柳生　記）

【病原体（ウイルス）検出情報（平成 25 年 2 月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、2 月におけるウイルス検出状況は以下のとおりです。

患者数（平成 25 年 2 月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	臨　床　診　断　名
アデノ	1	1	2		扁桃炎(2),感染性胃腸炎(1)
アデノ	2		1		咽頭結膜炎(1)
アデノ	40/41		2		感染性胃腸炎(2)
インフルエンザ	AH3		7		インフルエンザ様疾患(7)
インフルエンザ	B		2		インフルエンザ様疾患(2)
ノロ	GⅡ		2		感染性胃腸炎(2)

（保健環境研究センター　記）

【月報告対象感染症(性感染症・薬剤耐性菌感染症)発生状況(2月月報)】

平成25年2月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下のとおりです。

・STD患者数（人）

疾患名＼報告月	2月		前月（1月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	11	1.22	7	0.78
性器ヘルペスウイルス感染症	4	0.44	4	0.44
尖圭コンジローマ	2	0.22	1	0.11
淋菌感染症	8	0.89	8	0.89

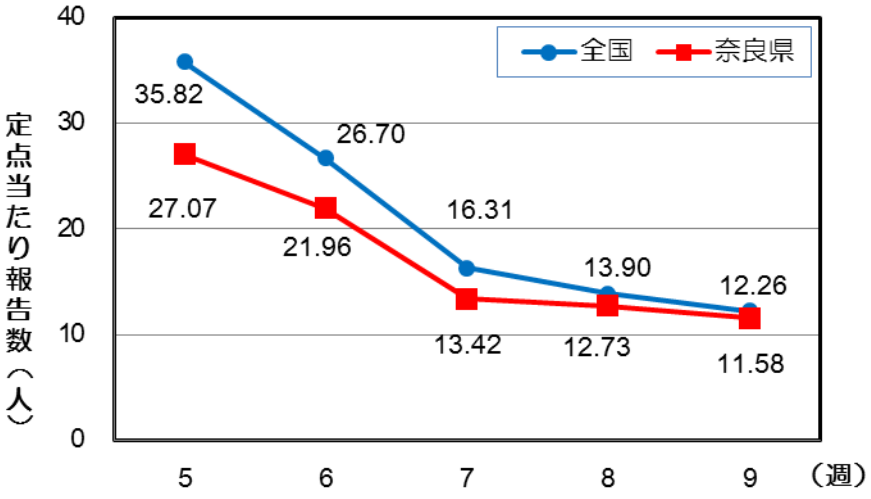
・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

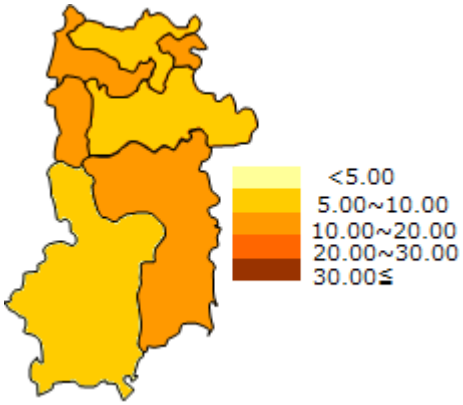
疾患名＼報告月	2月		前月（1月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	27	4.50	32	5.33
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	1.67	11	1.83
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	1	0.17
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

（感染症情報センター　記）

≪流行感染症情報：インフルエンザ≫

第9週の奈良県全体における定点あたり報告数は11.58（報告数637）と、前週に比べ減少しました。全国値も12.26と、前週より減少しました。



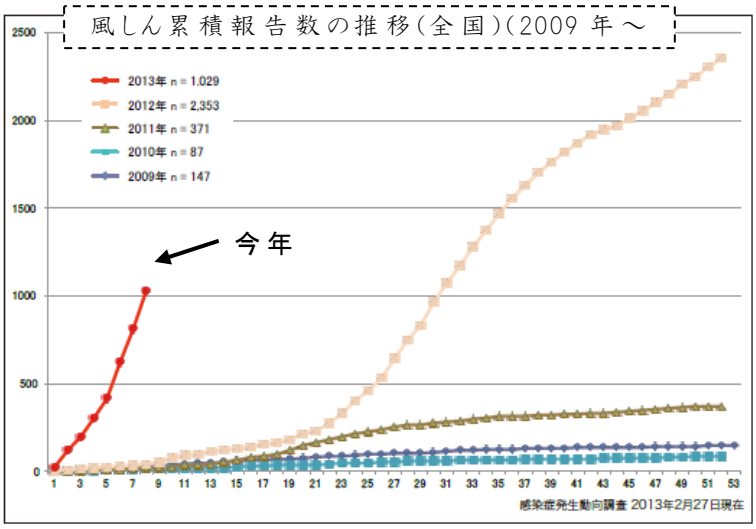


保健所別定点当たり報告数

（感染症情報センター　記）

昨年に引き続き風しんが流行しています

～風しんから、おなかの赤ちゃんを守るために！～



●例年は、春から初夏にかけて流行します

風しん（rubella）は、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性の疾患です。2012年の春から、近畿地方を中心に流行が始まり、夏には首都圏へ拡大し、全国的に大流行しました。その大流行が今年に入っても続いています。大阪府や兵庫県と、奈良県と近い地域で流行していることから、注意が必要です。

●妊婦が風しんに感染すると....

風しんは子どもが感染すると、通常あまり重くない病気ですが、妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんに感染すると、おなかの赤ちゃんも風しんに感染し、難聴、心疾患、白内障、精神運動発達遅滞などをもった、いわゆる先天性風疹症候群の児が出生する可能性があります。特に妊娠初めの３ヶ月までがその可能性が高く、妊娠早期であるほど高い傾向が認められています。

●風しんに感染していると分からない人もいます

風しんウイルスは患者さんの飛まつ（唾液のしぶき）などによって他の人にうつります。発疹のでる２、３日前から発疹が出た後の５日くらいまでの患者さんは感染力があると考えられています。また、ウイルスに感染しても明らかな症状がでない人もいます（不顕性感染）。しかし、不顕性感染であっても感染力には違いがありません。発疹がでる前であったり、不顕性感染だったりすると、感染力はあるのに風しんに感染しているとは分からない人がいることになります。

また、先天性風疹症候群がおこる可能性が高い妊娠早期は、妊娠に気づく前でもあります。

●10代後半から40代の女性、特に妊娠を希望する女性はワクチン接種を受けましょう

お母さんの体の中に免疫がしっかりできあがっていれば、おなかの赤ちゃんにうつることもありません。妊娠を希望する女性は、**妊娠していない時期にワクチン接種を受けましょう**（ワクチン接種後２ヶ月は避妊が必要です）。すでに免疫を持っている方が再度ワクチン接種を受けても、特別な副反応がおこるなどの問題はありません。そのような方の場合、ワクチン接種で風しんに対する免疫をさらに強化する効果が期待されます。なお、妊娠中はワクチン接種を受けることが出来ません。

●妊婦さんの周りの人もワクチン接種を受けましょう

稀に、ワクチン接種を受けても抗体が十分出来ない方もいます。そういった妊婦とおなかの赤ちゃんを守るためにも、過去に「風しんにかかった」「予防接種を受けた」「風しん抗体がある」がはっきりしない場合は、妊婦さんの周りの人もワクチン接種を受けましょう。特に、妊婦の夫、子ども、同居のご家族は、ワクチン接種を受けましょう。

●考えてください....

二人目を妊娠中に、上の子の保育園のお友達から感染するとか、まだ妊娠に気づいていない新婚の女性が職場の同僚から感染するとか、考えられることはたくさんあります。大人の不注意で、おなかの赤ちゃんに障害を背負わせるようなことがないよう、考えてみて下さい。

風疹 Q&A　http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html
IDWR（2013年第６週）　http://www.nih.go.jp/niid/images/idwr/pdf/latest.pdf

（感染症情報センター　記）